にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会だより

コミュニティ・スクールの心意気を、挨拶にこめて

コミュニティ・スクール（CS）は、学校・家庭・地域がともにつくる学校のこと。二小・井口小・二中からなる「にしみたか学園」のCSでは、子どもも大人も地域も共に一緒に育っていくことを願いに活動を進めています。役員陣の顔ぶれも新たになった今年度。そこで、改めての活動のご紹介も兼ねてのコメントを寄せてもらいました。

子どもたちのためにあるCSでもそれだけでもない

開かれた学校を目指して、子どもたちを学校と地域が一緒に支える。それがCSですが、「子どもたちのため」だけではないと思うのです。

様々な社会で活躍する様々な価値観をもった大人が集う事。その中で大人がワイワイやりながら学ぶ事。先生方と学校での子どもたちの情報交換ができる事。様々な行事で汗を流す大人の姿を子どもたちに見せる事。その結果、子どもたちや家族の方たちから「ありがとう」って言ってもらえる事。これって「子どもたちのため」だけではないですよね？何より自分が楽しんだ結果が子どもや学校のためになるのが大切だと思います。

そしてCSをきっかけに地域の団体に参加してみる。そこで更に楽しくやっていく事が「スクール・コミュニティ」だと思います。そういう方が増える事で地域はもっと楽しくなると思います。そんな楽しさの循環が生まれたら素敵ですよね？

会長・中山裕之

わくわくするための評価

突然ですが「評価」って何でしょう？私は「なにかとなにかを比較」することだと思います。そして比較する一方には、何かしら元となる「モノサシ」が必要となります。さて、にしみたか学園には目指す児童生徒像があります。自らの頭で考えて行動し未来を切り拓くことや失敗を恐れずに挑戦をしていくことなどです。そして、その頂きに近づくために取り組むべきことがアクションプランとしてまとめられています。これが一つのモノサシです。評価部の仕事は、まさにこのモノサシを使って、あるべき姿に対するにしみたか学園の現在位置を示すことだと思います。

本来、評価というのは、未来をより良い方向に近づけるための営みであり、様々な立場からなる関係者の共通言語を養っていくための営みでもあろうと思います。みんなで盛り上がってより良い未来を目指すのって、なんだかわくわくしませんか？我々はみなさんの「わくわく」をたくさん集められるような活動をしていきたいと考えています。

評価部部長・菊田誠

「繋いで整える」それが私たちの活動

小学校で行うまち探検やまちづくりプランナー、小学校中学校で行う職業人に聞くや職場体験、これらの活動を通じて子供達は街の営みを知り、将来の自分がその営みの中で携わる仕事への想像を広げる。

街の営みを子供達へ伝える役目は地元のさまざまなコミュニティの活動や運営に携わる方々、将来の職について伝えるのは地元にゆかりのある方の縁でつながった方々。それぞれの学校活動に求められる方々と私たちが繋がり、その繋がりを学校へ届ける。それにより活動の場が整う。

今年もこれからもコーディネート部の部員の皆様と共に、またCS委員の皆様にも助けて頂きながら今年も学校の様々な活動を「繋いで整える」事を楽しんでいけたらと思う。

コーディネート部部長・村上直人

会話を育むことで、街も育まれる

コミュニケーション推進部は、この「CS委員会だより」の作成や編集もしつつ、地域にいろんな会話が生まれたり育まれたりしたらいいなという想いのなかで活動を進めています。雑談も含めた会話の中でやってみたいことや課題が発見されたりもしますよね。この地域でなにか面白いことをやってみたい！暮らしててよかった！と子どもたちに感じてもらえたら最高です。

コミュニケーション推進部部長・熊井晃史

もっと知りたくなった方へ

「コミュニティ・スクールガイド」はオンラインでも読めます！

そもそも、コミュニティ・スクールって！？というところから子ども大人も地域もみんなで一緒に育っていくための想いや考え方をまとめています。

「アクションプラン」や過去のアーカイブもオンラインで！

これまでの「CS委員会だより」の記事も含めてすべてオンラインでアーカイブしています。

97号もくじ

- ・コミュニティ・スクールの心意気を、挨拶にこめて
- ・もっと知りたくなった方へ（コミュニティ・スクールガイドを読もう！）

【特集】安心ほっこり、二中の通級「PORT247」

今号のひとことフレーズ

みんなで
地元を
安全安心
わくわくに

前列左から、吉野弘司（交通対第二地区会長）、菊田誠（二中PTA元会長）、熊井晃史（井口小PTA元副会長）、村上直人（二中PTA元副会長）、中山裕之（二中PTA元会長）、青木睦（二中校長）、五味川直季（井口小校長）、高嵜浩三（二小校長）、宮崎望（元三鷹市教育部長）、原口佐枝（青少対第二地区庶務）、岡崎直見（二中PTA副会長）、井上和香奈（二小PTA書紀）、櫻井亜希（二中PTA元副会長）、井上淳子（鶏鳴幼稚園園長）、亀井寛之（二中PTA副会長）、島田敏生（交通対井口地区副会長）、高橋克（井口小PTA会長）、丸山尚（西多世代交流センター館長）、藤田尚子（青少対井口地区副会長／SC推進員）、横山由希（井口小副校長）、田中義子（二小桜子ども広場／SC推進員）、黒沼敦子（ICU特任助教）、小板橋義夫（二小副校長）、岡田一紀（二小おやじレンジャー）、興村修（二小PTA）、岩本伸一郎（二中PTA元副会長）、橋本正洋（井口小PTA副会長）、嶋田裕志（三鷹市社会福祉協議会井口フレンド担当）、米川充（二小PTA元会長）、阿部通子（二中PTA副会長）、武津なつ美（二小PTA元副会長）、米川和沙（二小PTA元副会長）、あささん　撮影：渡邉信彦（二中副校長）

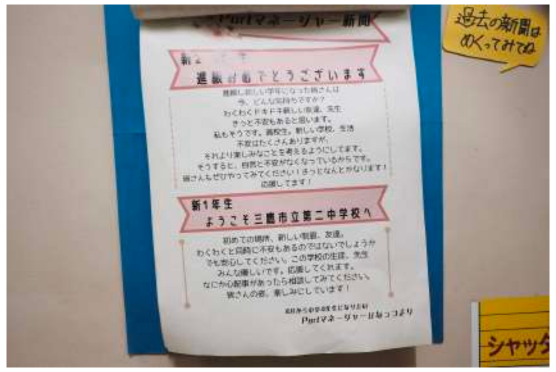
2023年7月1日　発行者：にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会　編集：コミュニケーション推進部

特集：安心ほっこり、二中の通級「PORT247」

あたたかい眼差しがどんどんひろがる地域へ

左から4人目がお話を伺った大嶋容子先生

左から、米川さん（隣街で児童支援のお仕事を！）、亀井さん（建築家だし大学でも教えているし農家さんでもあるし、たまに西多世代交流センターで働いているし色々）、宮坂先生（大嶋先生の同僚）、藤田さん（スクール・コミュニティ推進員だし色々）、嶋田さん（三鷹市社会福祉協議会で井口フレンド）、丸山さん（三鷹市初の男性保育士でもある！西多世代交流センターの館長さん）、すぐるさん（丸山さんの後輩で、後学のために参加してくれました♡）、撮影＆執筆しているのが熊井（🐻）



PORT247って！？

二中の通級「PORT247」って、NHKが取材に来たりと注目も集まっているように感じますが、保護者の間でも「あそこがあるから子どもも安心して学校に足が向いているよう」といった声も聞かれます。CS委員としては、にしみたか学園全体で子どもたちのための環境がより豊かになったらなと願っていまして、それがひいては誰にとっても暮らしやすい街へとつながるような気がします。というわけで、今日は大人数で来ちゃいました！

どうもありがとうございます。いつもお世話になっています！こういう機会はとても嬉しいです。本来、手が差し伸べられるべきなのに「助けて！」と言えない状況に追い込まれている子どもたちはたくさんいると思うんですね。まずは、そういった子どもたちにとって心から安心できる場所にしていきたいというのが、PORT247なんです。本来、子どもたちは学びたい存在。でも何かしらの障壁があることで、学びたいという欲求が叶えられない。でも、安心安全な環境さえ用意できたら、自ずと学んでいく力が子どもたちにはあるんですよね。

安心感をしっかりつくって守って、子どもたちを信じ抜くという。

そうです。そうです。学校生活に合わせられない自分を不必要に責めてしまう子どもたちも多くみられます。その障壁を感じるのは子どもたちだとしても、その障壁そのものは学校や社会側にあるんですよね。そして、その感じ方は一人ひとり違ってくる。ですから、一人ひとりに向き合いながら、子どもを取り巻く周囲の環境を整えていくことが求められます。

いわゆる自己肯定感がどん底な状態って、スゴイつらいことだと思います。

大人でもそうですよね。シンプルに言えば、あたたかい眼差しが向けられさえすればいいんですよね。そのためには、子どもを理解したいという教員や保護者の気持ちと、教員や保護者の方だけでなくって、ななめの関係と言われるような多様な人との関わり方も育んでいけたらいいですよね。

亀井さんは、派手な格好しながらスケボーしたり、ポジティブな変なおじさんとして学校や街なかを練り歩くことで、「こんなへんてこな大人でも生きていけるんだよ」「へんてこなことをしちゃっていいんだよ」というメッセージを発したいというのが実はあったりするんですが、つまりそういうことですよね。

ホント、そうです（笑）。ちょっとしたことでもいいので、あたたかい眼差しや関係が生まれる環境が望ましいです。

それこそ、CSの出番って感じがします。そういう街にしていきたいです！

自分の手で、自分の人生を育てていけるという感覚

PORT247では、子どもたちはどんな活動をしているんですか？

こちらから無理強いすることは一切ないんですが、子どもたちは安心感が育まれていけば、自然と「これをやってみたい、あれをこうしてみたい」と、興味関心の向かう先が出てきたり、気持ちを表現してくれるようになります。ここではその気持ちを後押しすることを徹底しています。子どもたちが多様であるように、絵画・音楽・プログラミング・宇宙だったりと、子どもたちの興味関心もまちまちです。そして、自分がやりたいことを達成するために、苦手なことにも挑戦したり、苦手なことに対するライフハックを身につけるという様子がよく見られます。

本当の意味での自由研究みたいですね。

そうですね。自分の人生をより良い方向に変えていけると思えたり、自分自身の人生のハンドルを持てていると思えるようになって欲しいんですよね。

日本財団の18歳の意識調査では、「自分で国や社会を変えられると思う」人の割合が世界各国と比べて日本はかなり低かったです。変化の原因に自分がなれるという感覚は、すごい大切な気がします。とはいえ、それだけのバリエーションの興味関心に向き合いながら教えていくのは大変なんじゃないですか？

いつも同じことをやれば良いというわけではないという意味では、大変です。とはいえ、繰り返しになってしまいますが、本来、子どもたちは自分の学びを育んでいける存在なんです。例えば、プログラミングなんかは私たちより子どもの方が得意です。先生側が答えは必ず持っていなければいけないわけでもないと思うんですね。一緒に調べたり、子どもたち同士が教えあったり、それこそ地域の詳しい方をコーディネートしたりしていけばいいんですよね。

これまたCSの出番って感じがしてきました！そっか、助けを借りながらも答えを自分たちで生み出していけたり導き出せると思えたら、学びに向かう姿勢も変わりそうです。

はい。ここでは、遊んだり創作しているうちに、学んじゃってたということはよくあることです。それに、大人側も思いもよらない新しい発見や驚きがあって、楽しいですよ。

仲間に入れて欲しいという気持ちになります！CSメンバーも頷きまくっていましたが、まさにそういう環境を地域で育んでいきたいわけなんですよね。一人ひとりの個性にあった学習環境を目指す「個別最適化」って、教育領域では最近よく聞きますがPORT247ってほんとまさにそれですね。

ほんというと全員に来てほしいくらい

そうありたいと思っています。一人ひとりとしっかり向き合いながら、それぞれが自分なりのテーマをみつけたり、深めていったり、それをあたたかいコミュニティのなかで分かち合う。自分のことに耳を傾けてもらえるし、自分以外の考えに耳を傾けることもできる。そもそもそれって、誰にとってもプラスのことで、ほんというと全員にそういう経験が必要だとも思っています。

心からそう思います！またしても、CSメンバーのみなさんも首がもげるほど頷いておられます。

PORT247としては、受け入れることができる子どもたちの人数に限りがありますが、子どもたちの主体性を大切にしながら、それぞれの個性に合わせた学び方を目指しているという意味では、教育に関する基本的な考え方はそういった方向に進んでいっているんです。みんなでそういう環境をつくっていきたいですよね。

そうですね！ちなみに、この紙面を読んでPORT247のことが気になって話を聞いてみたい！となった保護者の方や生徒の方がいたらどうすればいいんでしょうか？

私たちが小学校に出向いて説明会を行うこともありますし、教員から声をかけさせて頂く場合もありますし、いろいろな方法があるんですが、担任の先生に尋ねて頂ければ大丈夫ですよ。

💗🌈✌️